

な る ど

八戸聖書キリスト教会
牧師：澤田隆一
電話：0178-43-3091

NO・29
2015年、
8月30日



殺してはならない。

出エジプト 20:13.



十戒の第5戒「殺してはならない。」

質問：「これはどんな意味ですか？」

答え：「私たちは神を畏れ、愛すべきです。それで、隣人を傷つけたり、困難に合わせたりすることなく、むしろ彼らを助け、すべての必要において友人となるべきです。」

神様が、殺したり傷つけてはならないと命じられる対象は、「隣人」そして「自分自身」です。問い67. の答えには、「もし私が隣人の命を奪ったり、どんな方法でも憎んだり、傷つけたりするなら、第五戒を破ることになります。」と教えられております。

また、問い70. には、「神は私にいのちをくださいました。神だけがそれを取る権利があります。もし私が自分のいのちを絶つなら、殺人を犯すことになります。」とも記されているのです。

ですから、私達は、他者を憎んだり、傷つけたり、殺すことを戒められるのと同時に、自分自身も憎んだり、傷つけたり、殺してはならないと教えられているのです。それは、自分を愛することです。(無論、これはナルシストやエゴイスト的な愛ではありません。)

聖書には、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい。」(レビ 19:18, マル 12:31,)とも記されています。すなわち、自分を正しく愛することができなければ、隣人を愛することは出来ないのですから、人は先ず最初に、『神様から愛されている自分』を受け入れる必要があります。それから、神様から頂いた愛によって隣人を愛することができるのです。

このことを私たち自身に適応するなら、十字架の贖いを受け入れる前の状態では、罪が放置されたままになってしまい、そこには自分を基準として考える、人間的な自己中心的な愛しか無いのです。しかし、キリストの十字架の贖い、自己犠牲の愛を頂いた後、私達は新しいいのち(新生)を頂くことが出来ます。古い人間的な自分は過ぎ去り、聖霊によって聖とされてゆく人生が始まるのです。

言い方を変えると、『キリストの似すがた』へと変えられてゆく人生だと言えるでしょう。実感や目覚ましい変化が急に現れる訳ではありません。でも、「日々新たに」(2コリ 4:16)して下さる神様を信頼し、希望を持って歩ませて頂きましょう。

八戸だより

～ 2015 年度 ～

目標聖句 私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。
これをあなたのこどもたちによく教え込みなさい。”申命記6章6，7節
年間目標 みことばを中心とする教会形成

「主の祈りの証し」

幼少期に、暗闇の中、仕事で母が不在な時に、一人で寝ることはとても恐ろしく、不安との戦いでした。

羊を何匹数えても、ちっとも眠れません。外で風の音がするだけでも怖く、やがて薄明かりで見る天井のシミや節が、なにやら恐ろしい姿に見えたり、家のきしみも人が歩く音に聞こえる始末でした。布団を被っても怖さは減りません。

そんな中で、思い出すのが、CSで教えられた「主の祈り」でした。どう祈ったら良いか分からなかった私は、とにかくこの祈りだけを何度も繰り返して祈りました。

するとどうでしょう。羊を数百匹数えても、でたらめな歌を歌っても晴れることの無かった私の心に、不思議と平安が訪れるのです。いつの間にか眠ってしまい、朝を迎えているのです。

祈りには、人の心を落ち着かせ、不安に立ち向かう力があるのだと、幼心に教えられたのでした。 (R・S)